

温海地域振興計画 (案)



平成 3 1 年 3 月
鶴岡市温海庁舎

目 次

1. 計画策定の趣旨	1
2. 温海地域の特性・概要	1
3. 市民との対話や社会情勢等の変化から得られた課題	3
4. 温海地域のこれから目指す方向性	5
5. 施策の基本方針と具体的な展開方策	6

[参考資料 温海地域の統計]

1. 基礎データ	1 3
2. 年齢別人口及び世帯数の推移	1 4
3. 世帯の状況	1 4
4. 産業別（大分類）15歳以上就業者数	1 4
5. 農業の実態	1 4
6. 経営耕地面積規模別経営体数	1 5
7. 農産物販売金額規模別経営体数	1 5
8. 漁獲量及び漁業生産額の推移	1 6
9. 主要観光地・施設の入込客数の推移	1 6
10. 主な文化財及び伝統芸能等	1 7

<表紙の写真の説明>

「朝市広場DE ひるいち」の様子	弁天島と「恋する灯台」
越沢棚田トレッキングで自然体験	しなの木の花を原料とした化粧品
温海ふれあいセンターでのステージイベント	軽体操を通じて健康増進

1. 計画策定の趣旨

鶴岡市は、平成 20 年度に中長期の地域振興方針となる「地域振興ビジョン」を策定し、また、平成 25 年度には鶴岡市総合計画の後期基本計画を踏まえた「地域振興計画」を策定するなど、地域資源や特性を活かしたまちづくりを推進してきました。

温海地域においては、このビジョンと振興計画に基づき、重点的に取り組むべき地域振興の柱を「あつみ温泉の振興」「海・水産業を活かした地域振興」「交流を核にした地域振興」の三本とし、各種プロジェクトに取り組んできました。

しかしながら、社会や地域を取り巻く情勢の変化が大きく、課題を据え直したうえで再度地域振興の方向を見直す必要性が生じていることから、鶴岡市第 2 次総合計画の策定に併せて、新たな地域振興計画を策定することとしました。

このたび策定した「温海地域振興計画」は、これまで取り組んできた個別プロジェクトの単なる見直しにとどまらず、温海地域振興懇談会をはじめ、より多くの市民との対話からいただいた意見や提言を尊重し、本質をくみ取りつつ策定したもので、地域振興の目指す方向と重点的な取組について明らかにしたものです。

計画期間は 2019 年度から 2023 年度までの 5 年間とし、この計画に基づき、温海地域の更なる振興に向け、持続可能な地域づくり、地域特性を活かした特色あるまちづくりを推進していきます。

2. 温海地域の特性・概要

温海地域は、海・山・川・温泉など自然に恵まれた地域です。面積の約 9 割が山林で占められ平地が少ないことから、国道 7 号、国道 345 号、それらを東西に結ぶ県道沿線に一定の距離を置いて集落が形成されています。まとまった集落配置や豊かな自然環境などを背景に、集落が特色ある歴史と伝統文化、生活文化を継承しながら、それぞれ高い自治意識のもと個性ある活動を展開してきました。

しかしながら、人口減少や少子高齢化が進み、自治機能の維持において、人材不足や財政難などの課題に直面しており、さらには、生活スタイルの変化も加わり、地域住民だけで伝統文化を継承することが困難な集落が多くなってきています。



伝統農法で栽培される「焼畑あつみかぶ」

平成 30 年 3 月末時点における温海地域の総人口（住民基本台帳）は 7,437 人で、平成 20 年 3 月末と比較し 2,176 人減少（▲22.6%）しており、高齢化率は 44.5%で

1 9.6 ポイント上昇し、5 集落が 50%を超えています。人口動態は、本市他地域と比較
 2 しても、少子高齢化、人口減少の進行スピードが速く、特に出生数は平成 27 年度で
 3 29 人（温海庁舎市民福祉課調査）とそれまでの 30 人台を割り込み、その後は 20 人
 4 台で下げ止まっています。とりわけ、出生数の低下は保育園の集約に繋がり、更なる
 5 子育て世代の流出要因となることが懸念されています。

6
 7 農業については、少量多品目生産の小規模農家が多く兼業農家が主となっています。
 8 小規模農家の離農が進む一方で農地の集約化や規模拡大が進まない現状にあります
 9 が、農産物の主力である稲作については、地形的制約から大規模化が難しい反面、沢
 10 水を利用した米づくりなどにより、高品質で特色ある「米」を産出しており、併せて
 11 「焼畑あつみかぶ」や「越沢三角そば」など在来作物の生産やそのブランド化も進め
 12 られています。

13
 14 商工業については、地域内に工業団地がないため、小規模事業者が主となっており、
 15 就業者の多くは鶴岡地域など他地域に働く場を求
 16 めています。そのため、地域内の産業別就業者数
 17 は、あつみ温泉に関する「飲食・宿泊業」の割
 18 合が相対的に高くなっています。また、観光の中
 19 心であるあつみ温泉の入込客数は、日本海沿岸東
 20 北自動車道（以下「日沿道」と表記。）あつみ温泉
 21 IC 開通後増加傾向にあります。平成 29 年度実
 22 績でピーク時の 54%に止まっています。一方、豊
 23 富な自然資源や特色ある伝統文化を活かした体験
 24 型観光の推進に力を入れており、推進主体のNP
 25 O法人、受入れ団体及び行政が連携しながら体験メ
 26 ン्यूの開発や教育旅行の誘致な
 27 どを進めています。



あつみ温泉の魅力的な景観

28 地域の交通については、はしご状にネットワークされている国県道を利用した自動
 29 車交通が「地域住民の生活の足」となっていますが、急峻な河川沿いを通る道路は未
 30 改良部分も多く、特に冬期間は不安を抱えての生活となっています。また、人口減少
 31 や自家用車の普及などによる地域公共交通の利用者減少は、バス路線の撤退や減便な
 32 どを招き、自ら自家用車を運転しない高齢者、年少者の移動が困難となっており、家
 33 族の負担にもなっています。

34 一方、朝日温海道路が本格着工し、概ね 10 年以内に日沿道の全線開通が見込まれ
 35 ています。このことは、全国の高速道路ネットワークとつながるもので、温海地域に
 36 とっても大きなチャンスと捉えています。

3. 市民との対話や社会情勢等の変化から得られた課題

(1) 現計画の進捗の検証

①あつみ温泉の振興

「おもてなし」を意識した施策を展開してきましたが、空き店舗を活用した新規出店は制度利用者がなく、活用しやすい制度設計を再考する必要があります。また、誘客イベントが多数実施され温泉街の賑わいづくりに貢献してきましたが、一過性のイベントにならない工夫が必要です。また、外国人観光客が多く訪れるようになり、今後はインバウンドを意識した施策に加え、温泉観光地としての戦略を確立することが求められます。

②海・水産業を活かした地域振興

「庄内おぼこサワラ」や「天然トラフグ」のブランド化に加え、「乾燥紅エビ」「鮮魚の練り物」などの加工品が商品化されています。料理提供側も参画するキャンペーンにも取り組んでいるなど、展開の広がりが期待されますが、温海地域だけでなくオール鶴岡或いはオール庄内で進めることが求められています。弁天島周辺エリアにおいては、はなさき路の整備には至らなかったものの、鼠ヶ関灯台が「恋する灯台」※に認定されるなど観光スポットとしてのポテンシャルが向上しています。



夏の「はなさき路」の賑わい

※ 恋する灯台=埋もれていた「灯台」の文化や歴史的価値を可視化し、各地域の強力な観光資源とするために、灯台を『恋する灯台』という恋愛の聖地として認定し再価値化するプロジェクト。鼠ヶ関灯台が認定を受けた。

③交流を核にした地域振興

NPO法人などの取組により、温海地域全体をフィールドにした体験型観光が定着しつつあります。あつみ温泉の旅館との連携も進められており、体験メニューの整備充実とそれに伴う受け入れ実績も増加しています。目標であった教育旅行の誘致も実現し、今後さらに経済効果を生み出す展開が期待されます。また、温海地域の特産である焼畑あつみかぶも着実にブランド力が向上し、販売価格の上昇にも繋がっています。未利用資源の活用として取組んできた「しなの木の花を活用した新製品開発」については、一定の商品化がなされ、地域経済や雇用促進への貢献が期待されます。

(2) 市民との対話により得られた新たな課題

①日沿道を地域の活力につなげる（地域資源を活かした産業振興）

これまではマーケットでの価値がない、もしくは価値が低いとされていた農産物や、観光資源についても、それらの組合せなどによる新たな価値の創造や人々の新たな消

1 費行動に対応した価値化による地域資源の活用が求
2 められています。

3 また、人・物の対流を促進する日沿道の延伸を、
4 鼠ヶ関 I C（仮称）周辺に計画されている道路休憩
5 施設（以下「新「道の駅」」と表記。）を核とする産
6 業振興、物流の効率化による地域外への製品の展開、
7 さらには新たな地域資源の価値化による観光の振興
8 につなげることは、温海地域における重要な課題
9 です。



道の駅「しやりん」の全景

10

11 ②住み続けられる地域環境の形成（地理的条件を踏まえた人口減少対策）

12 温海地域は働く場所が少ないため、就業の多くは鶴岡市街地など温海地域外に求め
13 るケースが多い状況にあります。日沿道温海鶴岡間の開通により、通勤に要する時間
14 は短縮されたものの、高校への通学や児童生徒の塾・ピアノなどの習い事への送り迎
15 えなどは家族にとって大きな負担となっており、子育て世帯の減少につながっている
16 ものと推測されます。現に、温海地域の人口構成や社会的人口動態（転居）からもこ
17 のような実態がうかがえます。更には、医療、福祉のほか買い物などの生活サービス
18 機能も人口減少や消費者ニーズの変化により、より広範な生活圏となり、自らの運
19 転ができない年少者、高齢者の生活が困難となってきています。

20 また、地形的な特徴から土砂災害の危険性の高い区域に暮らしている人口の割合が
21 高く、災害により幹線道路がたびたび寸断される状況にあります。

22

23 ③特色ある集落自治機能の維持と地域活動団体の振興

（自立分散型地域社会を支えるシステムの維持・構築）

24 25 26 独立的な集落配置などを背景に、特色ある歴史、文化、伝統を有した集落が多く、
町政時代からの施策もあり、集落の自立意識が高い一方、人口減少や少子高齢化、生



湯けむり女子会の活発な活動

27 産年齢人口の減少等による自治会財政基盤の脆弱化、人
28 材不足により自治機能の維持、有線放送など基盤施設の
29 維持更新が困難になりつつある集落が増加しています。
30 こうした状況のなか、集落から転出した若者が集落の祭
31 事や行事に主体的に参加するなど、その承継を担ってい
32 る事例もみられます。また、自分たちの地域を盛り上げ
33 るという志のもと、多種多様な地域活動団体が組織され
34 ており、その活躍は、地域振興や自立分散型地域社会を

35 構築していくうえで欠かせないものとなっています。今後は、クラウドファン
36 グを活用した資金調達などにより、「稼げる組織」として地域の自立を支えることも
37 期待されます。

38

39

1 市民との対話から得られた施策のキーワード

2 「稼ぐ力を意識」「温泉街の魅力と戦略が必要」「来訪動機を増やす」「空間・景観を活かす」「新
3 たな価値の創造」「情報発信」「素材の発掘」「体験観光の推進」「伝統文化の記録・継承」「ブラ
4 ンドとプライド」「自治機能の維持」「コミュニティの活発化」「人材育成」「新たなツールの活用」
5 「生涯教育の充実」「チャレンジ」「移手段の確保」「距離的ハンデの緩和」「暮らし続ける」「関
6 係人口」
7

8
9
10 **4. 温海地域のこれから目指す方向性**

11 豊かな自然環境に恵まれた温海地域は、あ
12 つみ温泉に代表される観光資源や特色ある食
13 文化、伝統文化など多様な「価値」のもと、
14 27 集落が個性ある活動を展開してきました。
15 その一方で、進行する少子高齢化、人口減少
16 は、農林水産業をはじめとする産業振興や地
17 域コミュニティの維持など様々な分野に影響
18 を及ぼしています。



イカまつりの賑わい

19 人口減少社会といわれる現実を踏まえなが
20 らも、恵まれた自然環境や歴史を背景とした豊富
21 な地域資源の保存・継承・発展を図り、それらの活用・

22 連携による新たな「価値」の創造が求められています。今後見込まれる日浴道の全線
23 開通を契機にした産業の活性化を図るとともに、地域資源の活用による交流人口や関
24 係人口の拡大等を糧に、住み慣れた地域で生き生きと暮らし続けられる環境整備や基
25 盤づくりを進めます。

26 これらを具現化するため、「あつみ温泉の魅力の向上と賑わいの創出」、「日浴道延
27 伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化」、「自然・歴史・文化を活かした交流人口、関
28 係人口の拡大」、「農林水産資源のブランド



あつみ温泉ばら園まつりの賑わい

29 化」、「次代を見据えた自治会機能とコミュ
30 ニティ機能の強化」、「海・山・自然豊かに
31 暮らし続けられる環境整備」を6本の柱に
32 据え、それぞれ関連性をもたせながら地域
33 振興を図るとともに、その過程において、
34 次代を担う人材育成に繋がるような施策展
35 開に努めます。

36 あつみ温泉の振興にあっては、景観を活
37 かした温泉街の整備や、誘客対策により温

1 泉街の賑わいづくりを促進し、日沿道全線開通後も通過点とならないような魅力ある
2 温泉観光地を目指します。

3 日沿道延伸を活かした地域振興にあつては、計画されている新「道の駅」を活用し
4 た産業の活性化や鼠ヶ関地域の魅力向上による集客・誘客に加え、その周辺にも経済
5 効果をもたらす施策展開を図ります。

6 交流人口や関係人口の拡大策にあつては、豊富な資源を活かした体験型観光を推進
7 し、交流人口の拡大を図るとともに、地域と多様な関わりや思いを持つ人材を地域づ
8 くりを活かす仕組みを構築します。

9 農林水産資源を活用した地域振興にあつては、豊かな自然や歴史を背景とした特色
10 ある農林水産資源や伝統産業を継承しつつ、温海地域独自のブランドを構築するとと
11 もに、生きがいつくりや所得の向上を図ります。

12 自治会機能の維持や暮らし続けられる環境整備にあつては、地域内の集落が有して
13 いる特色ある自治機能を尊重し、それぞれの集落が将来にわたって自治機能を維持で
14 きるよう支援するとともに、自然環境や地理的条件を踏まえ、地域住民が将来にわ
15 たって暮らし続けられるよう生活環境の維持向上や地域への愛着を育む取組を進め
16 ます。

17
18

19 5. 施策の基本方針と具体的な展開方策

20

21 基本方針（1） 「あつみ温泉の魅力の向上と賑わいの創出」

22

23 温泉街の観光施設や景観、環境の整備により、来訪者が「そぞろ歩き」を楽しめる
24 環境づくりを進めるとともに、魅力ある店舗創
25 出や誘客対策により温泉街の賑わいづくりを
26 促進します。

27 また、あつみ温泉の中長期的な戦略を官民連
28 携により検討し、日沿道全線開通後も通過点と
29 ならないような魅力ある温泉観光地を目指し
30 ます。

31

32 〈具体的な展開方策〉

33 ①あつみ温泉街の景観整備

34

35 あつみ温泉の観光資源である温海公園（あつみ温泉ばら園）や桜並木の再整備を図
36 るとともに、足湯などの滞留拠点の改修や植栽の奨励による景観整備を進め、温泉街
37 の魅力の向上に努めます。

38



あつみ温泉野外能楽「せせらぎの能」

1 **②あつみ温泉街の賑わいづくり**

2
3 2021年の「開湯1200年」、2022年の「庄内藩の湯役所設置400年」などインパクトのある集客効果の高いイベント開催を支援するとともに、朝市広場の有効活用や新規出店に対する支援により、温泉街の賑わい創出を進めます。

7 **③魅力ある温泉観光地に向けた中長期戦略の検討**

8
9 あつみ観光協会や温海温泉旅館組合、地域住民、行政など官民が一体となり、あつみ温泉の中長期的な戦略の検討を進めます。

13 **基本方針（2） 「日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化」**

14
15 日沿道の延伸に伴い、計画されている新「道の駅」を活用した産業の活性化や鼠ヶ関地域の魅力向上による集客・誘客に加え、その周辺にも経済効果をもたらす施策展開を図ります。

16
17 併せて、庄内浜産魚介類を活用し、漁業のまち「鼠ヶ関」の知名度向上を図ります。



山形県指定の天然記念物「念珠の松」

22 **〈具体的な展開方策〉**

23 **①新「道の駅」を活用した地域振興**

24
25 計画されている新「道の駅」を地域産業の活性化につなげていくためのプラットフォームの構築や人材の育成を図ります。

28 **②既存「道の駅」の有効活用に向けた検討と施設整備**

29
30 日沿道の延伸後において、新「道の駅」を拠点とする観光まちづくりを進めるため、既存「道の駅」のあり方を検討し、有効活用を図るための必要な支援を行います。

33 **③鼠ヶ関地内の賑わいづくり**

34
35 みなとオアシスの構成施設となっている弁天島周辺エリアをはじめとした環境整備など、鼠ヶ関に「人」を誘導する仕組みづくりや観光地としての魅力づくりを進めます。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40

基本方針（３） 「自然・歴史・文化を活かした交流人口、関係人口の拡大」

温海地域が有する豊富な自然や産業及び伝統文化を活用した体験型観光や教育旅行の受入れを推進し、外国人旅行者も含めた交流人口の拡大を図るとともに、地域を離れた人材や地域と多様な関わりや想いを持つ人材を地域づくりに活かす仕組みを構築します。



教育旅行での「歌舞伎体験」

〈具体的な展開方策〉

①交流人口の拡大による地域活性化

体験型旅行の受入れ拡大や交流人口の拡大を目指すNPO法人を引き続き支援するとともに、民泊（農泊）については、農家等の意向も考慮しながら受け入れ環境の整備を進めます。



初めて開催された「田舎のうまいもん食堂」の賑わい

また、交流人口の拡大等を図るため、関川地区活性化計画※の目標達成に向けた取組を支援します。

※ 関川地区活性化計画＝農山漁村振興交付金を活用した山村活性化を図るため、関川地区に地域資源活用流施設を設置するにあたり、平成 28 年 4 月 1 日付けで「関川地区活性化計画」を策定した。内容は、関川地区の「しな織」を活用し、交流人口の拡大とともに地域産物(しな織関係)の販売額増加に取り組み、地域活性化を図るものである。

②関係人口拡大の仕組みづくり

地域を離れた人材や地域と多様な関わりや想いを持つ人材を関係人口として、ふるさと支援や情報交換などの仕組みづくりを進めます。

基本方針（４） 「農林水産資源のブランド化」

豊かな自然や歴史を背景とした特色ある農林水産資源や焼畑などの伝統農法を守り継承しつつ、温海地域独自のブランドを構築するとともに、生きがいつくりや所得の向上を図ります。



ブランド力が向上しつつある「越沢三角そば」の畑

また、貴重な地域資源である国指定の伝統的工芸品「羽越しな布」の保存・継承を支援するとと

1 もに、製品開発や未利用資源の活用など新たな取組にもチャレンジし地域振興を図り
2 ます。

3

4 **〈具体的な展開方策〉**

5 **①地域の食文化継承による地域振興**

6

7 古くから栽培されている在来作物等の継承や認知度向上を図るとともに、伝統農法
8 である焼畑については、資源循環に配慮しながら、栽培技術の継承と再生林をあわせ
9 た取組を支援します。

10

11 **②高齢農業者の生きがいづくり**

12

13 少量多品目でも流通できる仕組みづくり、鳥獣による農作物被害を軽減する取組を
14 進め、高齢農業者も生きがいを持って農業を続けられる環境整備を図ります。また、
15 地産地消を推進するとともに、産直体制の強化再編の検討を進めます。

16

17 **③地域資源を活用した農山村集落の活性化**

18

19 「羽越しな布」の振興を図るため、後継者育成や経営体制の強化に向けた取組を支
20 援するとともに、未利用資源の活用や他の素材とのコラボレーションなど新たな価値
21 の創造を目指します。

22

23

24 **基本方針（５） 「次代を見据えた自治会機能とコミュニティ機能の強化」**

25

26 地域内の集落が有している特色ある自治
27 機能を尊重し、それぞれの集落が将来にわ
28 たって自治機能を維持できるように支援す
29 るとともに、高齢者世帯の増加を見据えた
30 新たな情報伝達体制の構築を図るため、住
31 民との対話を重ねながら、その調査研究に
32 取組みます。

33

34 **〈具体的な展開方策〉**

35 **①時代に即した情報伝達手段の構築**

36

37 各自治会の重要な情報伝達手段として長年使用してきた「有線放送」設備が老朽化
38 し、維持管理に苦慮している現状や人口減少、高齢化の進行等を踏まえ、地域課題解



第2地区運動会の様子

1 決手法として、ICTを活用した「生活支援サービスも統合した新たな情報伝達シス
2 テム」の調査研究に官民連携して取組みます。

3

4 ②地域コミュニティの基盤強化

5

6 持続可能な集落の将来像を示す「集落振興ビジョン」の策定を促し、ビジョンに基
7 づく自治機能や地域コミュニティ活動の拠点施設を維持する取組を支援します。

8 また、自治会単位での活動を補完し、広域的な活動や交流の拠点となっている施設
9 については、その活用方法や管理形態を見直したうえで、施設の機能強化に取組みま
10 す。

11

12

13 基本方針（6） 「海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備」

14

15 温海地域の自然環境や地理的条件を踏まえ、地域
16 住民が将来にわたって暮らし続けられるよう、道路
17 ネットワークの強化など生活環境の維持向上を図る
18 とともに、地域への愛着を育む取組を進め、多様な
19 主体が連携し、高齢者が活躍する場の創出や住民同
20 士が支えあう地域づくりを推進します。

21 また、地域に存する遊休資産を活用し、地域活力
22 の創造につなげる取組を進めます。

23

24 〈具体的な展開方策〉

25 ①資源を活かした地域活力の創造

26

27 温海地域内に存する遊休資産、特に廃校の利活用
28 については、市場性の有無や実現性の高い事業スキ
29 ームについて、想定される事業者との対話により検
30 討を行い、その活用の実現を目指します。

31

32 ②地域に即した交通手段の確保

33

34 路線バスの廃止など地域公共交通網の現状を踏ま
35 え、新たな住民の移動手段の確保を図るため、鶴岡
36 市地域公共交通網形成計画との整合及び地域住民と
37 の対話に配慮しながら、持続可能な公共交通網形成
38 を目指します。併せて、遠距離通学となっている高



若者が活躍する「神輿流し」(厳島神社例祭)



旧福栄小で開催された「こしゃって やまのがっこう祭」



地域のイベントで子供達も活躍(鈴から竹フェア)

1 校生世帯に対する支援に取り組めます。
2

3 **③次代を担う人材の育成** 4

5 世代間交流などによる郷土愛の醸成に加え、健康寿命の延伸を図るため、高齢者の
6 知恵と能力の活用など高齢者が生き生きと暮らせる環境づくりを進めます。
7

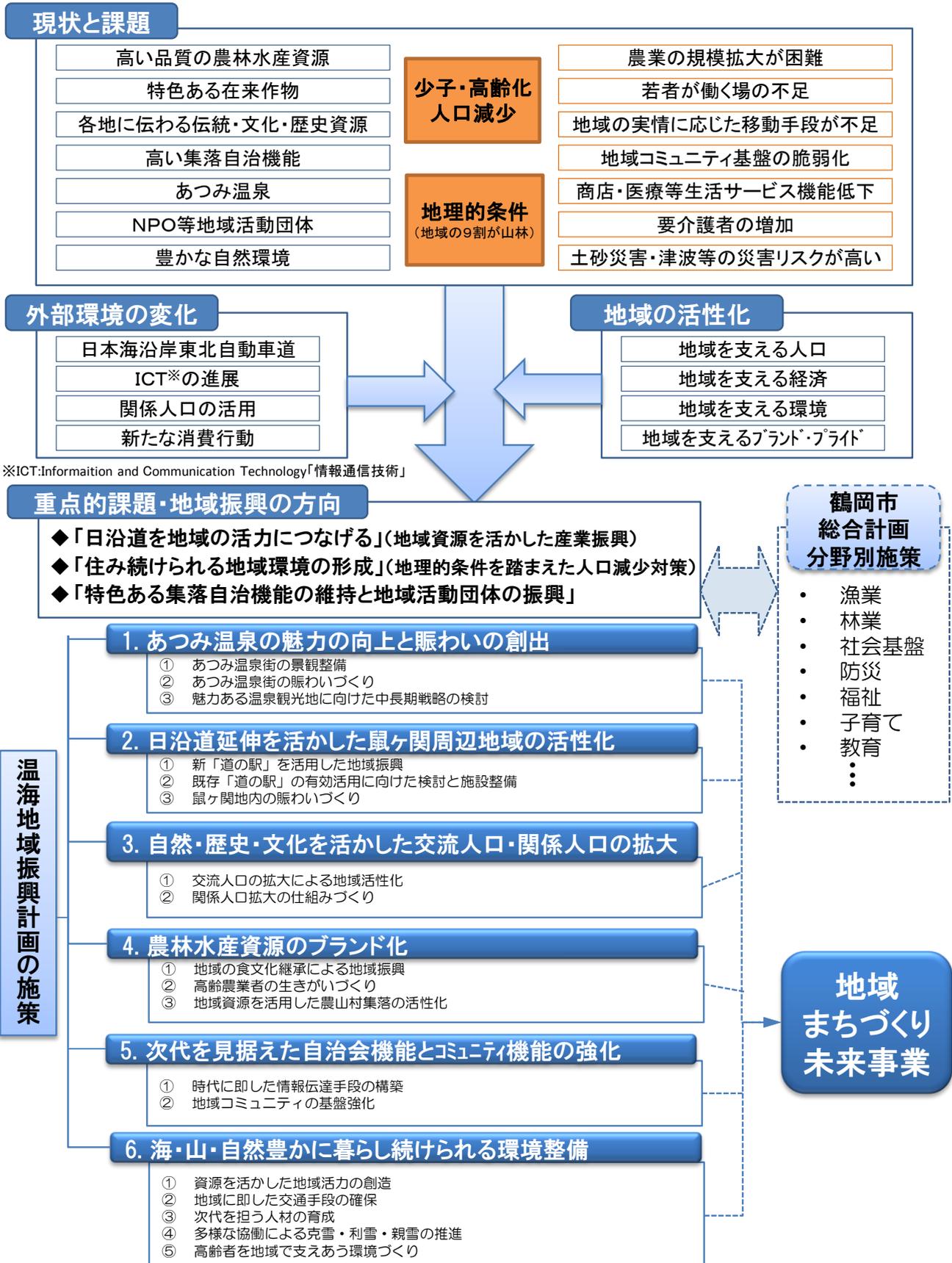
8 **④多様な協働による克雪・利雪・親雪の推進** 9

10 住民と行政、住民と多様な団体との協働や集落内共助による克雪、利雪及び親雪対
11 策の検討を進め、生活環境を維持する取組に併せ、雪を交流や体験観光に活用する取
12 組を推進します。
13

14 **⑤高齢者を地域で支えあう環境づくり** 15

16 高齢者世帯の増加を踏まえ、介護予防活動と買い物支援を一体的に提供するサービ
17 スにより、住み慣れた地域でいつまでも生活できる環境を整備します。
18
19

■ 温海地域の施策の方向性(体系図)



1 **【参考資料 温海地域の統計】**

2 **1. 基礎データ**

区 分		単位	温海地域	市全体	
人 口	H20. 3. 31	人	9,613	140,896	
	H30. 3. 31	人	7,437 (減少率22.6%)	127,736 (減少率9.3%)	
世帯数	H20. 3. 31	戸	3,065	47,066	
	H30. 3. 31	戸	2,790 (減少率9.0%)	48,569 (増加率 3.2%)	
面 積		平方km	255.40	1311.51	
就業者数	H27国勢調査		人	3,641	64,816
		第1次産業	人	382(10.5%)	6,095 (9.4%)
		第2次産業	人	1,163(31.9%)	18,457 (28.5%)
		第3次産業	人	2,095(57.5%)	39,089 (60.3%)
販売農家数	2015農林業センサス		戸	261	3,838
		専業	戸	56	760
		第1種兼業	戸	21	912
		第2種兼業	戸	184	2,166
市営住宅	H30. 4. 1	戸	120	822	
認可保育所	H30. 4. 1	所・人	4所(園児数 147)	38所(園児数 3,039)	
認定こども園	H30. 4. 1	園・人	0園(園児数 0)	9所(園児数 675)	
学童保育所 (放課後児童クラブ)	H30. 7. 1	所・人	1所(登録児童数 31)	22所(登録児童数1,705)	
小学校	H30. 5. 1	校・人	2校(児童数 259)	26校(児童数 6,093)	
中学校	H30. 5. 1	校・人	1校(生徒数 166)	11校(生徒数 3,220)	
高等学校	H30. 5. 1	校	0	9	
医療施設	H30. 3. 31	所	7 (病院 0) (一般診療所 5) (歯科診療所 2)	167 (病院 7) (一般診療所 109) (歯科診療所 51) (歯科技工所 19)	

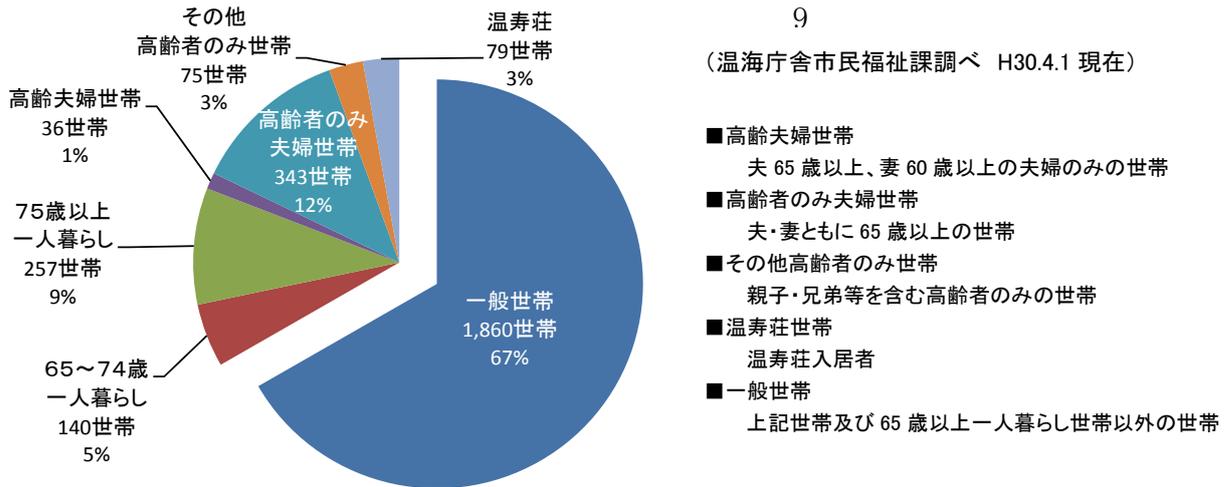
※ 「高等学校」には、高等専門学校を含む。

2. 年齢別人口及び世帯数の推移

		各年3月末現在								
項目	年	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
世帯数		3,025	2,987	2,950	2,947	2,902	2,865	2,854	2,819	2,790
人口		9,212	8,980	8,727	8,522	8,262	8,050	7,859	7,621	7,437
	～14歳	962	899	865	821	773	724	664	632	599
	15～64歳	4,943	4,828	4,661	4,459	4,247	4,055	3,837	3,670	3,531
	65歳～	3,307	3,253	3,201	3,242	3,242	3,271	3,358	3,319	3,307

(住民基本台帳)

3. 世帯の状況



4. 産業別（大分類）15歳以上就業者数

(単位:人)

地域別	調査年	15歳以上 就業者数	第1次産業			第2次産業			第3次産業					
			農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	うち卸売・ 小売業	うち飲食 店・宿泊業	うち医療・ 福祉			
市全域	H17	71,557	7,656	7,193	63	400	22,292	61	7,324	14,907	41,463	11,404	3,746	6,668
	H22	65,987	6,566	6,060	147	359	19,645	61	6,030	13,554	39,298	10,014	3,909	7,872
	H27	64,816	6,095	5,667	119	309	18,457	57	5,782	12,618	39,089	9,147	3,718	9,111
温海 地域	H17	4,812	560	402	8	150	1,728	3	878	847	2,519	636	520	347
	H22	4,142	478	289	36	153	1,397	4	719	674	2,265	554	452	413
	H27	3,641	382	234	17	131	1,163	4	561	598	2,095	453	453	467

(国勢調査)

5. 農業の実態

(単位:ha、人)

年度	水田 面積	水稲 面積	転作 面積	主な転作物作面積				遊休 農地	認定農 業者数
				かぶ	冥加	蕨	そば		
H22	640.8	355.2	166.2	3.4	11.4	11.5	29.9	119.4	22
H23	639.3	355.5	140.6	3.7	11.9	11.0	29.1	143.2	22
H24	636.9	352.2	141.7	5.2	12.2	11.4	30.7	143.0	22
H25	641.7	343.3	163.0	10.4	13.1	14.3	36.6	135.4	22
H26	641.5	331.8	166.8	7.7	12.6	16.7	43.6	142.9	23
H27	638.8	315.8	169.6	5.2	12.6	16.9	42.5	153.4	28
H28	640.1	308.9	182.5	4.6	11.2	19.3	46.9	148.7	28
H29	639.0	306.1	182.3	2.2	10.9	18.4	48.6	150.6	28

(水田面積から遊休農地までは「水稲共済細目書」)
(認定農業者数は「認定農業者名簿」)

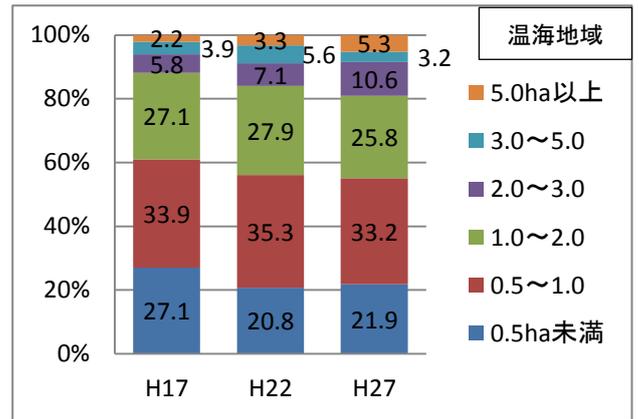
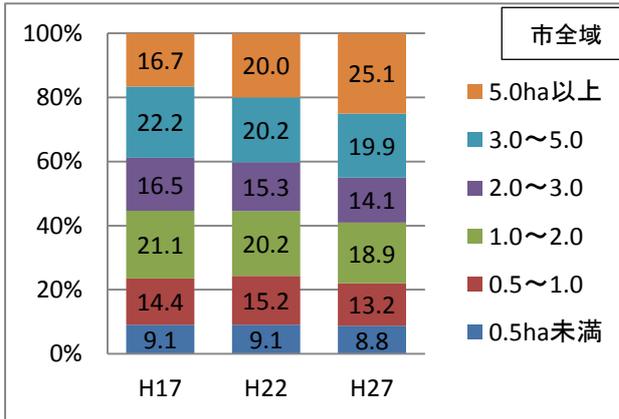
6. 経営耕地面積規模別経営体数

(単位:経営体)

地域別	調査年	0.5ha未満	0.5～1.0	1.0～2.0	2.0～3.0	3.0～5.0	5.0ha以上	計
市全域	H17	508	803	1,180	919	1,236	931	5,577
	H22	428	716	955	722	955	941	4,717
	H27	355	533	762	569	802	1,014	4,035

地域別	調査年	0.5ha未満	0.5～1.0	1.0～2.0	2.0～3.0	3.0～5.0	5.0ha以上	計
温海地域	H17	112	140	112	24	16	9	413
	H22	70	119	94	24	19	11	337
	H27	62	94	73	30	9	15	283

(農林業センサス)



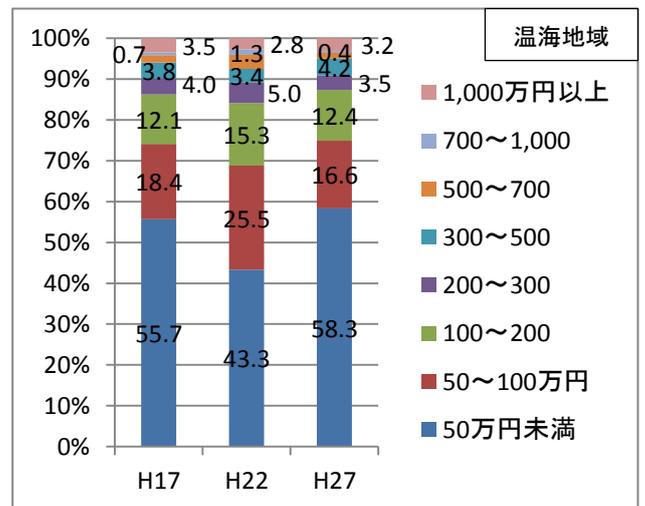
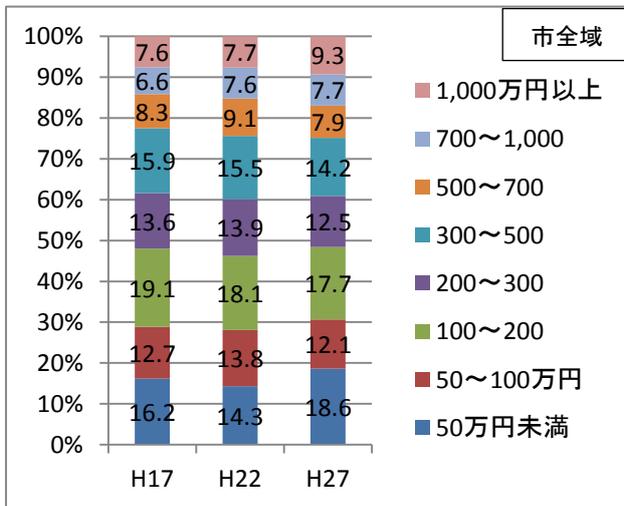
7. 農産物販売金額規模別経営体数

(単位:経営体)

地域別	調査年	50万円未満	50～100万円	100～200	200～300	300～500	500～700	700～1,000	1,000万円以上	計
市全域	H17	889	695	1,047	744	874	455	365	417	5,486
	H22	656	631	832	636	709	420	348	354	4,586
	H27	753	490	714	503	572	318	310	375	4,035

地域別	調査年	50万円未満	50～100万円	100～200	200～300	300～500	500～700	700～1,000	1,000万円以上	計
温海地域	H17	221	73	48	16	15	7	3	14	397
	H22	139	82	49	16	11	11	4	9	321
	H27	165	47	35	10	12	4	1	9	283

(農林業センサス)



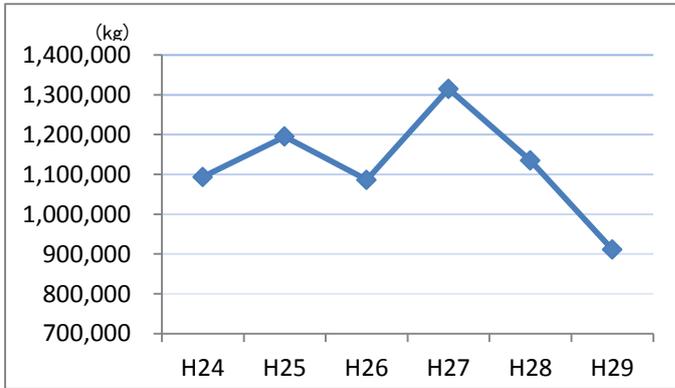
8. 漁獲量及び漁業生産額の推移

漁獲量の推移

(単位: kg)

地区	年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
温海地区		80,132	68,606	63,896	91,172	75,550	39,018
念珠関地区		1,013,168	1,126,375	1,022,210	1,223,775	1,059,063	872,187
計		1,093,300	1,194,981	1,086,106	1,314,947	1,134,613	911,205

(漁協統計)

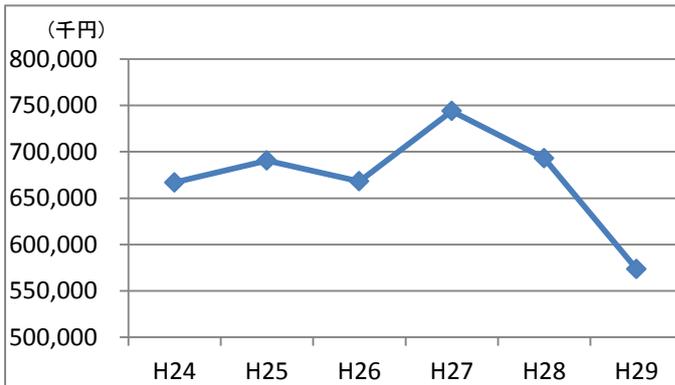


漁業生産額の推移

(単位: 千円)

地区	年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
温海地区		82,557	76,562	76,004	90,222	74,364	43,281
念珠関地区		584,525	614,066	592,230	653,727	618,767	530,160
計		667,082	690,628	668,234	743,949	693,131	573,441

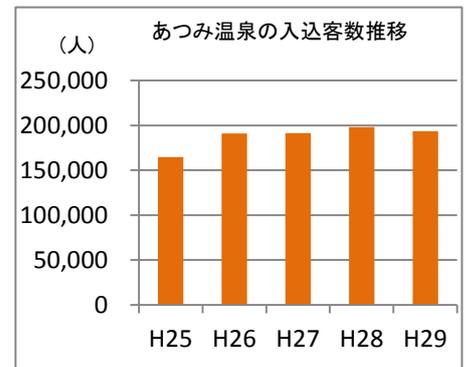
(漁協統計)



9. 主要観光地・施設の入込客数の推移

(単位: 人)

観光地名	H25	H26	H27	H28	H29
あつみ温泉	164,600	191,000	191,300	198,100	193,700
念珠関	7,600	6,600	5,900	5,900	5,800
念珠の松庭園	3,800	3,200	3,100	2,900	2,900
海水浴場(鼠ヶ関)	11,000	9,700	11,100	10,900	6,300
キャンプ場(鼠ヶ関)	1,000	800	1,000	1,100	800
民宿	7,200	7,200	7,300	6,900	10,000
足湯カフェ トットモツシ	30,600	38,500	42,000	38,900	36,000
道の駅「あつみ」しゅかりん	242,700	282,600	290,500	287,100	271,900
関川しな織センター	4,500	4,700	3,200	3,100	2,900



※ 百人未満は四捨五入

(温海地域観光動態)

1 10. 主な文化財及び伝統芸能等

2 ①国指定

名称	区分	指定年月日	所有者、保持者又は所在地等
山五十川の玉スギ	天然記念物	昭和 26 年 6 月 9 日	山五十川／熊野神社
早田オハツキイチョウ	天然記念物	昭和 26 年 6 月 9 日	個人所有
小国城跡	史跡	平成 14 年 12 月 19 日	小国／個人ほか所有
羽越しな布	伝統的工芸品	平成 17 年 9 月 22 日	関川しな織協同組合

3

4 ②県指定

名称	区分	指定年月日	所有者、保持者又は所在地等
曹源寺のヒサカキ	天然記念物	昭和 28 年 2 月 13 日	鼠ヶ関／曹源寺
村上屋の念珠のマツ	天然記念物	昭和 28 年 2 月 13 日	鼠ヶ関／鶴岡市所有
マルバシヤリンバイの自生地	天然記念物	昭和 31 年 11 月 24 日	温海字温福／鶴岡市所有 温海字暮坪／矢除神社所有
摩耶山	名勝	昭和 36 年 5 月 6 日	越沢、関川
山戸能	無形民俗文化財	昭和 39 年 3 月 17 日	山五十川古典芸能保存会
山五十川歌舞伎	無形民俗文化財	昭和 61 年 8 月 12 日	山五十川古典芸能保存会

5

6 ⑦市指定

名称	区分	指定年月日	所有者、保持者又は所在地等
古代鼠ヶ関址および同関戸生産遺跡	史跡	昭和 47 年 10 月 5 日	鼠ヶ関／鶴岡市所有
関川の戊辰役激戦地跡	史跡	昭和 61 年 1 月 24 日	関川／鶴岡市所有
近世念珠関址	史跡	平成元年 5 月 23 日	鼠ヶ関／鶴岡市所有
木野俣獅子踊	無形民俗文化財	昭和 47 年 10 月 5 日	木野俣獅子踊保存会
小国八幡宮弓射神事	無形民俗文化財	昭和 61 年 1 月 24 日	小国八幡宮弓射神事保存会
ケヤキキョウダイ ※	無形民俗文化財	平成元年 5 月 23 日	ケヤキキョウダイ保存会
関川のしな織	無形民俗文化財	平成 7 年 12 月 25 日	関川のしな織保存会
住吉神社社叢タブノキ純林	天然記念物	昭和 61 年 1 月 24 日	小岩川／住吉神社
木野俣熊野神社の巨木群	天然記念物	平成 10 年 7 月 24 日	木野俣／熊野神社

7 ※ 国選択 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財 平成 5 年 11 月 26 日

8

1



「恋する灯台」を背景にシーカヤック体験